

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。
Copyrighted materials of the authors.

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「アフリカ文化研究に基づく多元的世界像の探求」2014年度第6回公開セミナー報告

タイトル: アフリカ農村の生産者とグローバルな流通チェーンをつなぐために: 仲介業者の集荷実践からみるガーナ北部の手工芸品生産の存立形態

日時: 2015年2月3日(火) 18時~20時

場所: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所3階セミナー室(301)

司会: 目黒紀夫(AA研)

講演者: 牛久晴香(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

コメンテーター: 丸山淳子(津田塾大学国際関係学科)

参加者: 14名

内容:

今回のセミナーでは、ファッションバッグやインテリア用品として日本や欧米において販売が増加しているボルガ・バスケットが生産されているガーナ北部ボルガタンガ周辺地域で調査をされている京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科の牛久晴香氏を講演者として招いた。講演のなかではボルガ・バスケットの歴史と現在における生産・流通体制が紹介された。独立後に輸出用製品として生産されるようになったボルガ・バスケットは、過去30年ほどのあいだに先進諸国への輸出体制が確立した。輸出量は増加傾向にあり増産とともに品質の向上やデザインの多様化も起きているが、それは基本的にガーナ北部ボルガタンガ周辺地域でのみ生産されている。その生産面の特徴としては、対象地域の住民の多くがバスケットを生産しているものの、それを専業とする者はいないということがある。農業や雇用労働、家事労働などとの兼ね合いのなかで、それぞれが可能な範囲で自分の志向性にもとづいて生産をしている。いっぽう流通にかんしては、そうした生産者と先進国・国内企業とのあいだの仲介者として、現地の流通関係者が重要な役割を果たしている。仲介者は生産者と同じ村の人間であり、注文・集荷をおこなう生産者グループを各仲介者がもっている。そうしたとき、仲介者は自分のグループに属する生産者全員を見知っていて、トレーニングや生活支援をするだけでなく個々の技量をふまえて注文を傾斜配分したり緊急的な生産を依頼したりしていた。その結果として生産者との関係を維持すると同時に企業からの要望にも応えられていた。

コメントを経ての総合討論では、ボルガ・バスケットの生産者は仲介者や企業に束縛されたり搾取されたりしているといえるのか、そうした負の関係性が弱いとしたらその理由は何なのかといった点が論点となった。そうした点の議論を深めるためにも、生産者のあいだに見られる多様性を類型化して整理することや、生産者グループといいながらメンバー間の横のつながりは弱く集団化・組織化されているとは言い難い点をより意識して分析することが提案された。